

平成 30 年度自然保護委員総会 第 42 回山岳自然保護の集い 中央大会



昭和 30 年頃の武甲山 故浅見豊氏撮影



公益社団法人

日本山岳・スポーツクライミング協会

期日 平成 30 年 11 月 23 日 (土) ~ 25 日 (日)
オプション(武甲山など) 平成 30 年 11 月 25 日 (日)

開催地 埼玉県 比企郡 小川町 (小川げんきプラザ)

主催 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会

主管 第 42 回山岳自然保護の集い 中央大会 実行委員会

後援 小川町 埼玉県 環境省

内容

武甲山 頭部を落とされ、皮を削がれ無残な山容をさらし続ける山..... 5
事業報告・計画 9
タイムテーブル 13
参加者名簿 14

武甲山

武甲山（ぶこうざん・ぶこうさん）は、埼玉県秩父地方の秩父市と横瀬町の境界に位置する山である。秩父盆地の南側にあり、標高は1,304メートル[1]。日本二百名山の一つに数えられる。

秩父地方の総社である秩父神社の神奈備山である。無形文化遺産の秩父夜祭は、武甲山と強い関わりがあるとされている。

別名を秩父嶽、妙見山、武光山ともいう。固有種のチチブイワザクラをはじめ石灰岩地の高山植物が群生し、「武甲山石灰岩地特殊植物群落」として国指定の天然記念物となっている。

武甲山は北側斜面が石灰岩質であり、石灰岩の採掘が盛んに行われている。石灰岩採掘により山容の変化が著しく、旧山頂は既に失われてしまった。またこれにより旧山頂にあった縄文時代から近代までにいたる歴史のあった信仰遺跡、巨岩群も破壊され、完全に消滅してしまった。天然記念物の高山植物群生地も大半が失われるなど植生の破壊も著しく、奥武蔵の名峰と称えられた往年の面影は既がない。

(Wikipedia から)

平成30年年度 日本山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員総会
第42回 山岳自然保護の集い 中央大会

*目的

この集いは、平素の山岳自然保護の活動に資するため、それぞれの地域における山岳自然保護に関する活動発表や討議とともに、情報交流を行い、山岳自然保護に対する認識を再確認することを目的に開催します。

*大会のテーマ

“未来につなごう みどり豊かな山の自然”

要項

1. 期 日 平成30年11月23日(金)～11月25日(日)
※ オプション登山(3コース) 11月25日(日)
※ オプション登山不参加の方は25日(日)朝食後解散
2. 会 場 (及び宿舎)
埼玉県立「小川げんきプラザ」 (会場:活動センター、宿舎:本館)
〒355-0337 埼玉県比企郡小川町木呂子561
TEL 0493-72-2220 FAX 0493-71-1043
URL: <http://www.ogawagenki.com/>
※受付 11月23日(金) 受付 12時30分～
3. 主 催 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
4. 主 管 第42回山岳自然保護の集い中央大会開催実行委員会
5. 後 援 (申請中)
6. 日 程 (時刻については状況により変更することがあります。当日配布のプログラムで確認ください。)
7. アクセス
(公共交通利用) 東武東上線の小川町駅下車 会場へ送迎バスを運行する
東武東上線(池袋駅)から急行で1時間ほど
(マイカー利用) 小川げんきプラザ駐車場利用可

第1日 11月23日(金)

- ア、受 付 12時30分～13:00 受付:本館 玄関前
イ、自然保護委員長会議 12時35分～13:00 会場:本館 研修室
各県の自然保護委員長(代理)の方は時間までにお集まりください。
ウ、開会式 13時20分～13時50分 会場:本館 集会室
司会 小高 令子(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会自然保護事務局長
開会宣言
西山 常芳(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会自然保護副委員長
主催者挨拶
亀山健太郎(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会副会長
来賓挨拶
高窪 剛輔 小川町副町長
田中 文男 埼玉県山岳連盟名誉会長(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会顧問
坂口 三郎 群馬県山岳連盟名誉会長(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会顧問
閉式宣言

- エ、 基調講演 14時00分～15時00分 会場：本館 集会室
「武甲山 頭部を落とされ、皮を削がれ無残な山容をさらし続ける山」
講師 清水 武司 秩父山岳連盟会長
- オ、 総会議事 15時00分～16時00分 会場：本館 集会室
事業報告
1) 会議等
2) 年間活動
3) 自然保護指導員登録状況
- カ、 事務連絡
キ、 集合写真
- ク、 入 浴 16時20分～17時50分
ケ、 夕 食 18時00分～18時50分・・・食堂
コ、 交流懇親会 19時00分～21時45分・・・食堂
サ、 就 寝 22時00分 (本館：3階・4階 宿泊階)

第2日 11月24日(土)

- ア、起床 6時30分・・・希望者は金勝山ハイキング⇒⇒歩程時間約＝40分
- イ、朝食 7時30分～8時30分・・・食堂
- ウ、セッション1 9時00分～11時40分 会場：本館 集会室
司会：小高 令子 事務局長
(各都府県の活動状況の発表)
- エ、昼食 12時00分～12時45分・・・食堂
- オ、セッション2 13時00分～16時00分 会場：本館 集会室
司会：小高 令子 事務局長
モデレータ：増田 修 常任委員
- ① 次世代育成の実例と課題
パネル：増田 修 常任委員
- ② 山岳トイレについて
パネル：田上 正敏 常任委員
- ③ 登山道問題について
パネル：岡田 博之 専門委員
- ④ 希少動植物の保全
パネル：小林 貞幸 常任委員
- ⑤ まとめ
- ⑥ アピールの提案
- カ、中締め 16時00分～16時30分
- カ、夕食 18時00分～19時00分・・・飲酒は夕食後食堂で
- キ、オプション登山打合せ 19時20分～20時00分
- ク、入浴 21時50分迄に済ませて下さい。
- コ、就寝 22時00分 (本館：3階・4階 宿泊階)
- ※ 飲酒は各自で購入し食堂で行ってください。また、飲酒後の入浴は行わないでください。

- イ、 オプションに参加しない方
1) 朝食 7時30～8:30分 朝食後解散
2) 小川町行きの送迎バス 本館前発 9:30 予定
- ロ) オプションにて次のコースのエキスカージョン(登山)を実施します。
(マイクロバス送迎、昼食付)
夫々の終着地にて解散となります。

Aコース：武甲山…歩程時間＝約5時間30分

- ◎ 小川げんきプラザ⇒寄居・皆野有料⇒皆野⇒横瀬⇒生川⇒表参道登山口駐車場「…1本杉…御嶽神社…三角点…山頂展望台…御嶽神社…浦山登山道分岐…シタジクボ…合流点…表参道駐車場」⇒生川⇒西武秩父駅⇒寄居・皆野有料⇒小川げんきプラザ(解散)
- ※ 霜や氷結などが予想されますので、靴底スパイクなど滑り止めを用意頂くと安心です。

Bコース：大霧山…歩程時間＝約3時間30分

- ☆ 小川げんきプラザ⇒東秩父村⇒橋場バス停⇒秩父高原牧場⇒粥仁田峠登山口「…大霧山…旧定峰峠…定峰峠⇒白石車庫⇒橋場⇒小川町駅(下車)⇒小川げんきプラザ(解散)

Cコース：羊山「芝桜公園」散策ハイキング…歩程時間＝約2時間00分

- ◇ 参加希望なしにつき、中止となります

武甲山 頭部を落とされ、皮を削がれ無残な山容をさらし続ける山

講師 清水 武司 秩父山岳連盟会長

講師プロフィール

昭和 24 年 10 月 6 日生まれ 69 歳、
日本大学芸術学部写真学科卒、日本写真文化協会夏目正衛会長内弟子を経て家業である清水武甲写真館に入社、現在一般社団法人メガソーラー機構代表理事、埼玉県立近代美術館ファムス会長、秩父山岳連盟会長、秩父自然保護委員会会長、財団法人秩父宮会理事、環境省及び埼玉県自然保護指導員、武甲山資料館運営委員会理事

武甲山

頭部を落とされ、皮を削がれ無残な山容をさらし続ける山



武甲山は、

埼玉県北西部秩父山地に位置する山

秩父盆地の南東に平均傾斜 40 度の急峻な山容を見せる 標高 1336 メートルであったが頂上は切り取られ現在標高 1304 メートルの山で秩父盆地側である北側は全山、石灰岩の地層で覆われている。

武甲山は、周囲と同様秩父古生層からなっており、2 億年以前に出来た地層である、当時秩父地方は海洋の底にありサンゴ等の海洋生物が蓄積され、のちに地殻変動・造山運動により現在の武甲山が出現したものである。石灰岩に覆われている北側は、平均傾斜 40 度、随所に断崖絶壁がみられる急峻な山容を見せている。

武甲山は、

秩父盆地の南東にしっかりと根を下ろし厳然と立ち上がった山容を持った山は、秩父山地になかで唯一の山であることから、古代より秩父盆地の人々にとって、心の母であり、日々の生活の支えでありました。武甲山は秩父の人々にとって農業の神であり、水神としての神の宿る山であると信仰しておりました。世界ユネスコ文化遺産に指定された、秩父神社冬季例大祭俗称「秩父夜祭」は、

武甲山に豊作や無事を感謝し、水の神である龍神をやまに戻す祭りであると云われております。このように、古代より秩父の人々には、武甲山は信仰の源でありました。



武甲山は、

900種のシダ植物以上の高等植物を有し、この中には、武甲山を原産地とする植物をはじめ、石灰岩・北側斜面等特殊環境による、特徴ある植物が生育し武甲山植物相は、日本の植物界で注目されております。

1・チチブイワザクラ

1933年清水大典氏により発見された。花は紅紫色で美しく、母じんぞう形状、へりは浅く切り込む。腺毛が密生するのが特徴。武甲山特産の植物

2・ブコウマメザクラ

まめ桜が武甲山の石灰岩地域に隔離され適応分化した型である。

3・ミヤマスカシユリ

1941年清水大典氏により発見された。現在はスカシユリの変種として扱われている。武甲山の石灰岩岩壁に弓なりに下垂し茎の頂に橙赤色の花を上向きに咲く様は美観である。

4・ハヤザキタカトウダイ

黄緑色の小さな花をつける。タカトウダイに似ているが開花が早い。

他に武甲山を基準標本産地とする原産植物の主なものには

チチブヒョウタンボク

チチブヤナギ

ブコウミツバフクロウ

ブコウイワシャジン



武甲山の現状

武甲山の採掘は、古くは江戸時代から始まり、1960年頃は、年間200万トン、1965年頃は400万トン、1970頃からは約750万トンの採掘を行っており全山の石灰岩が10億トンといわれる埋蔵量の約半分を採掘、残りの5億トンを採掘し終わると長さ5キロメートル高さ900メートルに及ぶ世界にも例のない大斜面が出現する。秩父盆地からは南に巨大な白いピラミッド型をした壁が出現をする。現在年間750万トンの採掘が行われており、日本の5.3%、関東地区の50数%の採掘量を占めております。

武甲山の問題点

1979年より山頂の採掘がはじまり、秩父はじめ多くの人々に愛された山容は、緑の山が驚異的な速さで無残な白い岩山に変貌しております。武甲山の破壊は2つの特出した問題点があります、一つは行政、特に一部の政治家が主導して地元貢献と称し採掘を主導してきたことです。チチブイワザクラ・ミヤマスカシユリが武甲山で発見され1951年に国の天然記念物に指定され、自生地として通称「三ツ岩」が「武甲山石灰岩地特殊植物群落」として指定されました。世界で唯一の自生地が守られると誰も信じた5年後、1956年に横瀬町の指定地連絡不足との事で、東に数百メートル離れた場所に自生地が変更されました。後の武甲山総合調査の際に担当した植物専門家がこの地域には「さしたる植物はない」と調査発表をしております。1988年にその指定地も登山口近くの場合に移されております。指定地は国が天然記念物と認め未来永劫守り続けるために指定しており、日本人として世界に誇れる自生地であることは当然です。しかしながら、採掘をするためには邪魔な指定を、間違いであるとの方便で、地元民の知らないうちに変更し、さらに採掘予定地ではない地域に変更した権力者の暴挙は、弾劾されるべきであると考えております。この例以外にも、業者の意向を忖度し、裏で採掘しやすくするための便宜が多々あります。

二つ目は、日々この地域に暮らす人々です。秩父は数百の大小の祭りがある地域であります。ほとんどの祭りは遡れば、山の神の山岳信仰であり水の神の信仰であります。秩父を取り巻く山々・大小の源流が信仰の対象として古代より大切にされておりました。その中でも武甲山は、多くの祭りのシンボルであり信仰の源であります。戦前ならまだしも戦後の日本で地元の人々が、頂上の破壊による頂上の御嶽神社の移動、南にそびえる秩父のシンボルの武甲山が頭を破棄され見るも無残な白い岩肌を晒し続ける山になることを現在も許していることです。

日本を代表する太平洋セメント・三菱マテリアルは企業理念で広く環境と人類との共生をうたいながら、環境保護を何一つ行わず石灰岩の山を掘り続けております。問題は、地域の人々、政治家、企業が、数億年前からの我々の財産をこの数十年で消滅させようとしていることなのです。

武甲山の課題と自然保護の取り組み

全国の自然保護運動の先駆けの団体である秩父自然保護委員会は、日本で初めて国立公園内原生林の伐採計画の中止、子供たちに自然保護の大切さを勉強してもらう秩父緑の少年隊の設立、武甲山の変遷を記した雑誌「武甲山」の発刊。武甲山の植物の記録写真集「武甲山の植物」また日山協第一回自然保護総会の開催等様々な自然保護活動を行ってまいりました。しかし残念なことに、カリスマ指導者の下に勧められた運動は、死去とともに名ばかりの団体となり 30 年を経過してまいりました。武甲山は、平成に入り頂上の破壊とともに石灰岩を覆っていた土砂や樹木が剥ぎ取られダイナマイトの爆破により日々無残な姿を晒し続けております。

頂上からベンチカット採掘方法がとられ、10メートルの岩壁に2メートルの平場その平場に盛土して植林をする方法で連続した階段状の岸壁が出来ております。30年以前に、この植林の有効性をチェックすること。後世に武甲山の歴史・雄姿を残すことを目的に「武甲山資料館」を建設させ広く啓蒙運動を広げる事、チチブイワザクラ等、自生地より移植した植物を、自生地により近い環境に再移植して植生を調べる事等すべきことは多々あるのに、活動が外部発信のみに偏った活動中心となり地道な自然保護活動が御座なりになっておったと反省しております。自生地があると推測できる地区の自然をどう残すか、移植した植物のDNAを残す為により自生地に近い環境をどの様に作るか課せられた課題は多々あると考えております。

事業報告・計画

平成 29-30 年度常任委員会会議関係

年月日	事業名	備考
29. 11. 16	H29 年度度第八自然保護常任委員会	イ) 平成 29 年度自然保護委員総会の反省 ロ) 自然保護委員会プロジェクトについて (自然保護指導員養成テキスト編纂) ハ) JOC 環境地域セミナー 委員への派遣 ニ) 山岳団体自然環境連絡会 「アジア環境会議(台湾)」派遣について ホ) 自然保護指導員研修会開催について ヘ) 平成 30 年度事業計画について
29. 12. 5	H29 年度度第九自然保護常任委員会	イ) 第二回山の自然セミナー開催の件 ロ) 阿里山プロジェクト (アジア環境会議) の件 ハ) 委員長連絡会 組織・ガバナンスについて 来年度予算の策定について ニ) 奥多摩小屋存続に向けた意見書 (署名活動) ホ) JOC 環境地域セミナー 委員派遣 ヘ) H30 自然保護委員総会について ト) リニア新幹線と南アルプス自然阻害防止
30. 1. 16	H29 年度第十回自然保護常任委員会	イ) 第 2 回山岳自然環境セミナー開催の件 ロ) 登山部会 (12 月 27 日 都岳連にて開催) ハ) 奥多摩小屋存続に向けた意見書 (署名活動) ニ) H30 事業計画・予算について ホ) 平成 30 年度自然保護委員総会 ヘ) 自然保護委員会プロジェクトについて ト) 自然保護指導員研修会開催について
30. 2. 16	H29 年度第十一回自然保護常任委員会	イ) 第 2 回山岳自然環境セミナー開催の件 ロ) 29 年度自然保護指導員研修会報告 ハ) 予算折衝 ニ) 自然保護指導員関係発行物の有償化 ホ) テキストの平成 30 年度白本作成について ヘ) 奥多摩小屋存続に向けた交渉の件 ト) 日本山岳遺産サミット チ) 自然地域トイレ。し尿処理技術セミナー リ) 第 2 回山岳自然環境セミナー開催の件
30. 3. 17	H29 年度第十二回自然保護常任委員会	イ) 第 2 回山岳自然環境セミナー ハ) 組織管理規程について ニ) 平 30 年度計画について ホ) 自然保護指導員発行物の有償化 ヘ) テキストの平成 30 年度内編纂完 ト) 自然保護委員会の役割分担
30. 4. 20	H30 年度第一回自然保護常任委員会	イ) 第 3 回開催方向に H30 年度開催 ロ) 組織管理運営規定への対応 ハ) 奥多摩小屋存続に向けた活動報告 ニ) 自然保護指導員テキストの製作について ホ) 自然保護委員会の役割分担について ヘ) 栃木百名山登山教室募集の説明 ト) 吉野熊野国立公園 大台ヶ原のパンフ
30. 5. 21		常任研修会兼ねる
30. 6. 21	H30 年度第二回自然保護常任委員会	イ) 第 3 回開催方向の検討 ロ) 自然公園指導員関係 ハ) 自然保護指導員登録状況 ニ) 常任研修会の実施について

年月日	事業名	備考
		ホ) 第8回関東地区自然保護交流会の実施 へ) 自然保護委員総会の件 ト) 自然保護研修会の件 チ) 自然保護委員会の事業化推進について リ) 山梨岳連 70周年高山植物学習会
30.7.15	H30年度第三回自然保護常任委員会	イ) 新体制について ロ) 平成30年度の計画 ハ) 委員会の事業推進について ニ) 事業予算案 ホ) 第7回関東地区交流会開催要項の説明 へ) テキストの改訂について ト) 携帯トイレ問題について
30.8.16	H30年度第四回自然保護常任委員会	イ) 常任委員委嘱状伝達 ロ) 山岳団体自然環境連絡会 ハ) 自然保護常任・研修会 ニ) 第8回関東地区自然保護交流会 ホ) 第42回自然保護委員総会 へ) 指導員テキストの改訂について ト) 自然保護指導員について チ) 自然保護指導員出前講座
30.9.20	H30年度第五回自然保護常任委員会	イ) 第42回自然保護委員総会開催について ロ) 指導員の手引き改訂について ハ) 田代山・弘法太子小屋のトイレについて
30.10.18	H30年度第六回自然保護常任委員会	イ) HAT-J 神埼顧問 自然保護活動について ロ) 第42回自然保護総会について ハ) 指導員の手引き

平成30年度自然保護委員会組織（任期1年）

氏名	役割
松隈 豊	委員長
西山 常芳	副委員長
堀江 伸子	副委員長
田上 正敏	
手塚 福寿	
増田 修	
濱田 伸	
小高 令子	(事務局長)
猪狩 ノブ	(会計)
小林 貞幸	

氏名	専門分野
岡田博行	山岳環境全般
小島 和徳	山岳トイレ
廣田 博	高山植生
湯浅 達男	自然指導員
紅葉 淳一	森林植生
岩崎 繁夫	クリーン活動

研修及び研究会

第8回自然保護指導員研修会

平成30年1月21日（日）

国立オリンピック記念青少年総合センター

平成30年度自然保護常任委員研修会

平成30年7月15日（日）

国立オリンピック記念青少年総合センター

参加22名（常任・専門11名 実行委員11名）

第7回関東地区自然保護交流会

平成30年8月25日～26日

雲取山（鴨沢 小袖～奥多摩小屋～雲取山荘）

参加25名（東京5 栃木8 埼玉8 神奈川2 長野2）

第6回関東地区自然交流会

平成29年10月21日（土）～11日（日）

山梨県北都留郡丹波山村

参加27名（茨城2 群馬1 埼玉10 千葉1 東京6 神奈川4 長野3）

自然保護の啓発

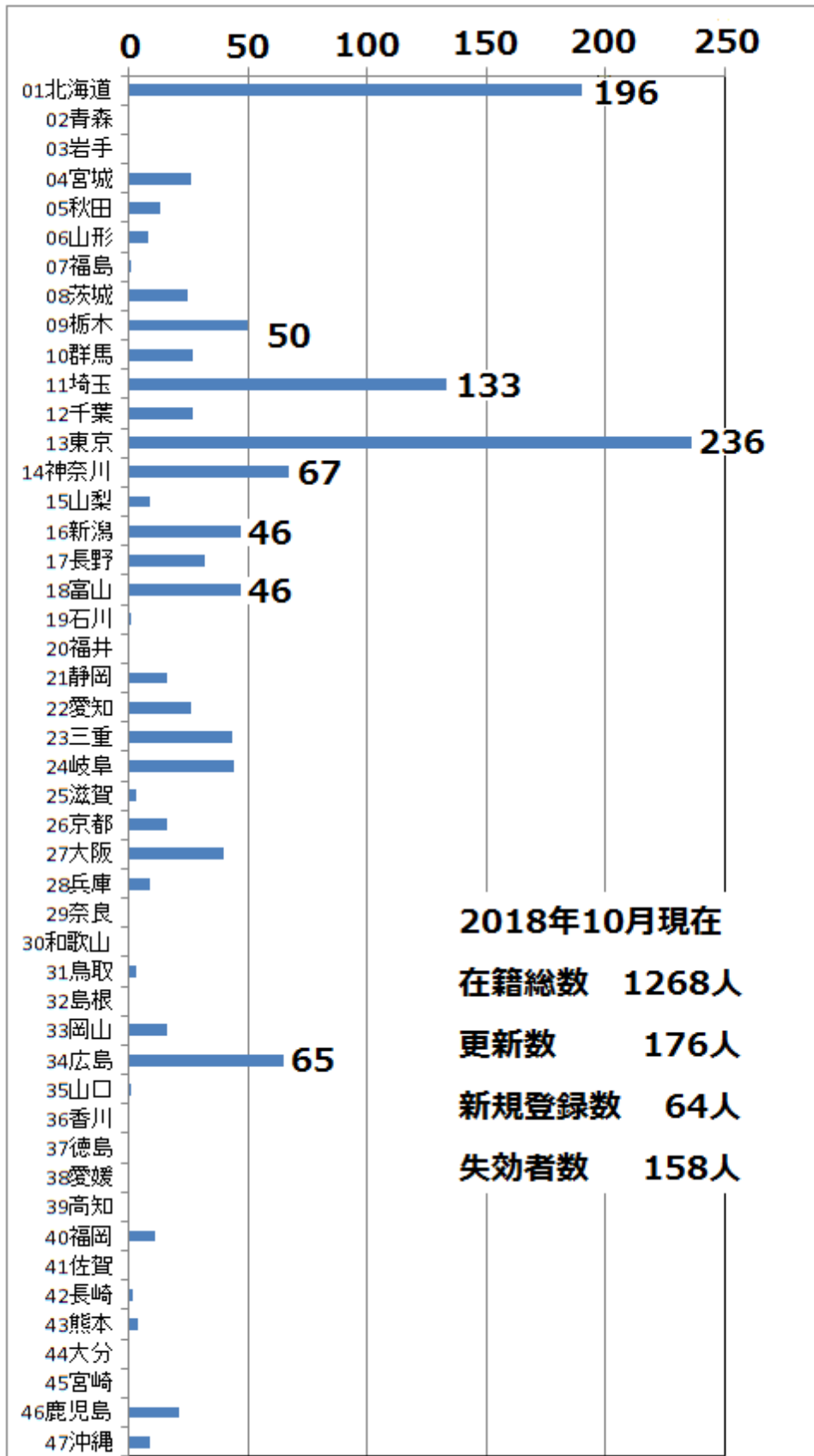
- 1) 自然保護指導員制度の推進
- 2) 全国環境月間の実施
- 3) 環境省・自然公園指導員制度への協力
自然公園指導員の推薦
- 4) 山岳自然保護関係団体との連携
山岳団体自然環境連絡会への参加
- 5) 日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

自然保護指導員登録

日本山岳協会の独自の制度として行われてきた制度ではあるが、登録数が数年間連続して減少傾向にある。日山協自然保護指導員制度の意義を考え、制度の増進が望まれる。

平成29年8月までの登録状況グラフを次ページに掲載します。

自然保護指導員登録状況



タイムテーブル

	11月23日(金)	11月24日(土)	11月25日(日) オプション
午前		起床 6:30	起床 5:30 ※ 部屋・寝具整理整頓
		散策 金勝山ハイキング	
午後		朝食 7:30~8:30	朝食 7:30~8:30
		セッション1 9:00~11:40 (本館 集会室) 司会 小高令子事務局長 各都府県の活動報告	オプション参加の方の出発 Aコース 6:30⇒朝食弁当支給 Bコース 8:45⇒朝食後
	受付開始 12:30 小川げんきプラザ玄関前	昼食 12:00~12:45 (食堂)	オプション不参加の方の出発 小川駅行き送迎バ出発 9:30(予定)
	委員長会議 12:35~13:00 (本館 研修室)	セッション2 13:00~16:00 (本館 集会室) モデレーター 増田修	
	開会式 13:20~13:50 【司会挨拶】 小高令子事務局長 【開会宣言】 西山常芳副会長 【主催者】 亀山健太郎副会長 松隈豊委員長 【来賓】 高窪剛輔副町長 田中文男顧問 坂口三郎顧問 【閉式宣言】	① 次世代育成の実例と課題 パネル：増田修常任委員 ② 山岳トイレについて パネル：田上常任委員 ③ 登山道問題について パネル：岡田博之専門委員 ④ 希少動植物の保全 パネル：小林貞幸常任委員	
	総会 (講演および議事) 【講演】 14:00~15:00 「武甲山 頭部を落とされ、皮を削がれ無残な 山容をさらし続ける山」 清水武司秩父山岳連盟 会長 (本館 集会室) 【議事】 15:00~16:00 事業報告等 松隈豊・堀江伸子、猪狩ノブ	中締め (本館集会室) ~16:30 集会室等 整理・清掃 18:00 迄に終了	
	集合写真		
	入浴 16:20~17:50	入浴 21:50 迄	
	夕食 18:00~18:50 懇親会 18:00~21:45 (食堂)	夕食 18:00~19:00 (食堂) 食後の飲酒は各自負担 オプション登山打ち合わせ 19:20~20:00	
	就寝 22:00 (本館：3・4階宿泊室)	就寝 22:00~ (本館：3・4階宿泊室) 注}・オプション参加者は 準備して下さい。	

参加者名簿

第42回 公益財団法人
日本山岳スポーツライミング協会 自然保護委員総会参加者名簿

平成30年11月19日

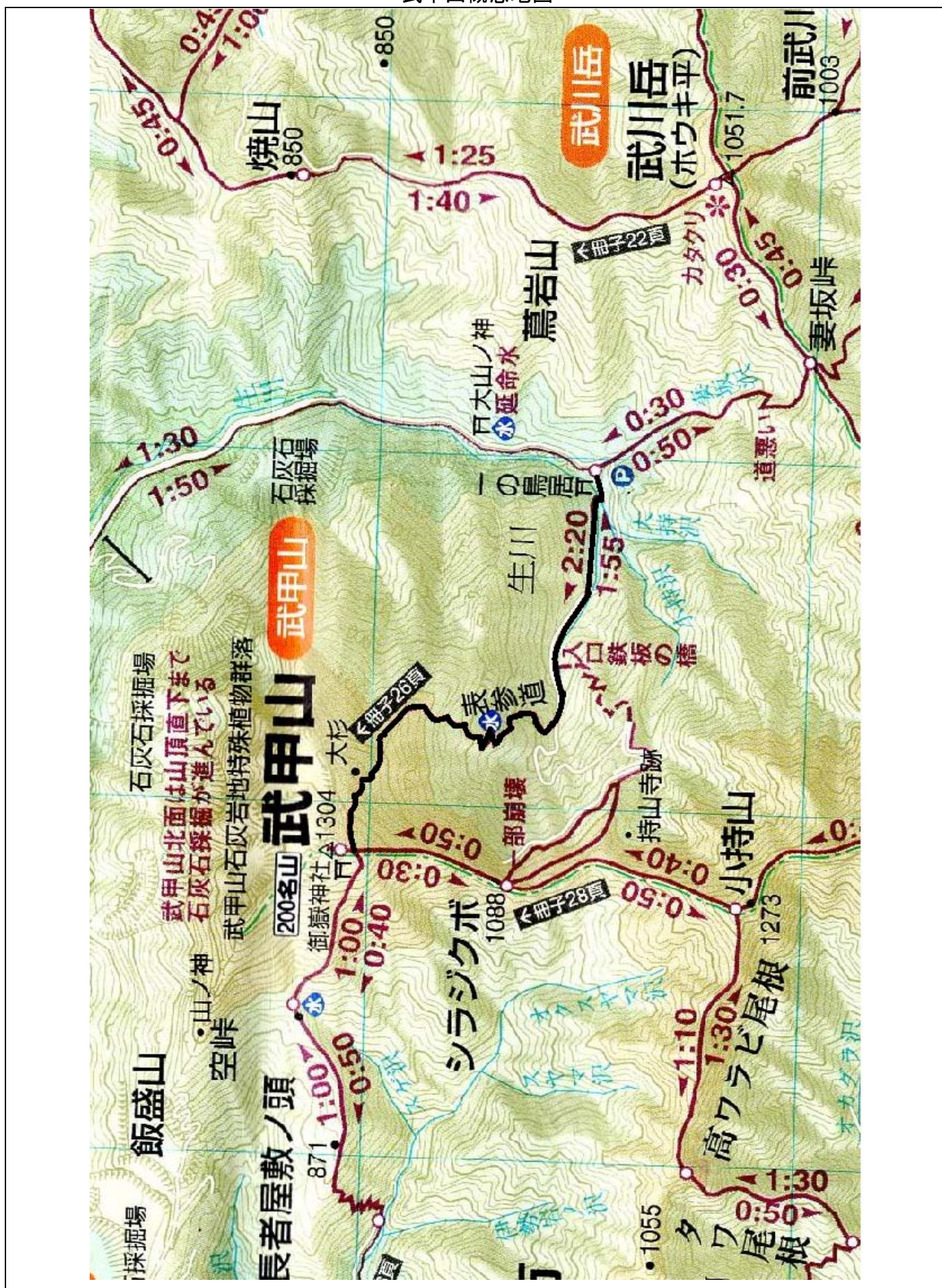
	氏名	所属	役職		登山			宿泊		部屋番号
			岳連・岳協	日山協	A	B	帰宅	23	24	
1	坂口 三郎	栃木岳連	名誉会長	顧問	-	-	○	◎	◎	408
2	田中 文男	埼玉岳連	名誉会長	顧問	-	-	○	◎	-	408
3	長谷川 茂	埼玉岳連		自元委員長	-	-	○	◎	◎	309
4	小田 里子	広島岳連	自保委員長	自保委員	●	-	-	◎	◎	④リーダー室
5	橋川 弘子	三重岳連	自保委員長		-	-	○	◎	◎	401
6	大濃 孝尚	福井岳連	自保委員長		-	-	○	◎	◎	308
7	藤崎 和生	兵庫岳連	自保副委員長		●	-	-	◎	◎	308
8	松塚 明則	鳥取岳連	自保委員長	自保委員	●	-	-	◎	◎	305
9	山本 憲彦	京都岳連	自保委員長	自保委員	●	-	-	◎	◎	306
10	増尾 翼	京都岳連			●	-	-	◎	◎	306
11	西田 和美	京都岳連			●	-	-	◎	◎	④リーダー室
12	井上 佑	山口岳連	自保委員長	自保委員	-	★	-	◎	◎	307
13	増子 麗子	北海道岳連	自保委員長		-	-	○	◎	◎	401
14	栗木 洋明	愛知岳連	自保委員長	自保委員	-	-	○	◎	◎	308
15	手塚 幸子	栃木岳連			●	-	-	◎	◎	④リーダー室
16	奈良 忠男	栃木岳連	幹事		●	-	-	◎	◎	302
17	中村 光吉	山梨岳連			●	-	-	◎	◎	306
18	植田 憲弘	山梨岳連			●	-	-	◎	◎	306
19	米田 正明	石川岳協	自保委員長	自保委員	-	★	-	◎	◎	304
20	濱本 幸弘	岡山岳連						◎	◎	307
21	伊藤 直	新潟岳協	自保委員長	自保委員	-	-	○	◎	◎	308
22	井口 礼子	新潟岳協	理事・総務		-	-	○	◎	◎	402
23	椎名 宏子	都岳連			-	-	○	◎	◎	402
24	小林 敏博	都岳連			-	-	-	◎	-	307
25	藤田 典夫	都岳連			●	-	-	-	◎	409
26	手塚 明子	栃木岳連			-	-	○	◎	◎	401
27	藤川 敏光	徳島岳連	普及委員		-	-	○	◎	◎	307
28	相澤 重夫	埼玉岳連	副会長		●	-	-	◎	◎	305
29	計良 寿彦	埼玉岳連			-	-	○	◎	◎	309
30	若狭 千江子	埼玉岳連			-	-	○	◎	-	403
31	小林 康子	埼玉岳連			●	-	-	◎	◎	405
32	田中 恵子	埼玉岳連			●	-	-	◎	◎	405
33	阿部 和子	埼玉岳連			●	-	-	◎	◎	405
34	竹原 和弘	埼玉岳連			●	-	-	◎	◎	305
35	筒井 美和子	埼玉岳連			-	-	○	◎	-	405
36	森山 つや子	埼玉岳連			●	-	-	◎	◎	405
37	村越 百合子	都岳連			-	-	○	◎	-	402
38	酒井 靖	都岳連			●	-	-	-	◎	409

	氏名	所属	役職		登山			宿泊		部屋番号
			岳連・岳協	日山協	A	B	帰宅	23	24	
39	熊谷 潔	埼玉岳連			—	—	○	◎	◎	309
40	佐藤 初枝	埼玉岳連			●	—	—	◎	◎	405
41	渡辺 淑子	埼玉岳連			—	—	○	◎	—	402
42	山口 静子	埼玉岳連			●	—	—	◎	◎	405
43	中沢 隆一	茨城岳連			—	—	○	◎	◎	304
44	助川 勉	茨城岳連			—	—	○	◎	◎	304
45	三田 治宣	群馬岳連	自保委員長	自保委員	—	—	○	◎	◎	303
46	野口 勝広	群馬岳連			—	—	○	◎	◎	303
47	清水 知樹	群馬岳連			—	—	○	◎	◎	303
48	小池 寛喜	群馬岳連			—	—	○	◎	◎	303
49	近藤 修三	岩手岳協			—	—	○	◎	◎	301
50	長畑 重広	岩手岳協			●	—	—	◎	◎	302
51	石井 清一	神奈川岳連			—	—	○	◎	◎	301
52	高橋 欣弘	新潟岳協			—	—	○	◎	◎	308
53	米田 正人	都岳連			—	—	—	—	—	24日帰り
54	江崎 裕之	栃木岳連	自委員長		—	—	—	—	—	24日帰り
55										
56										

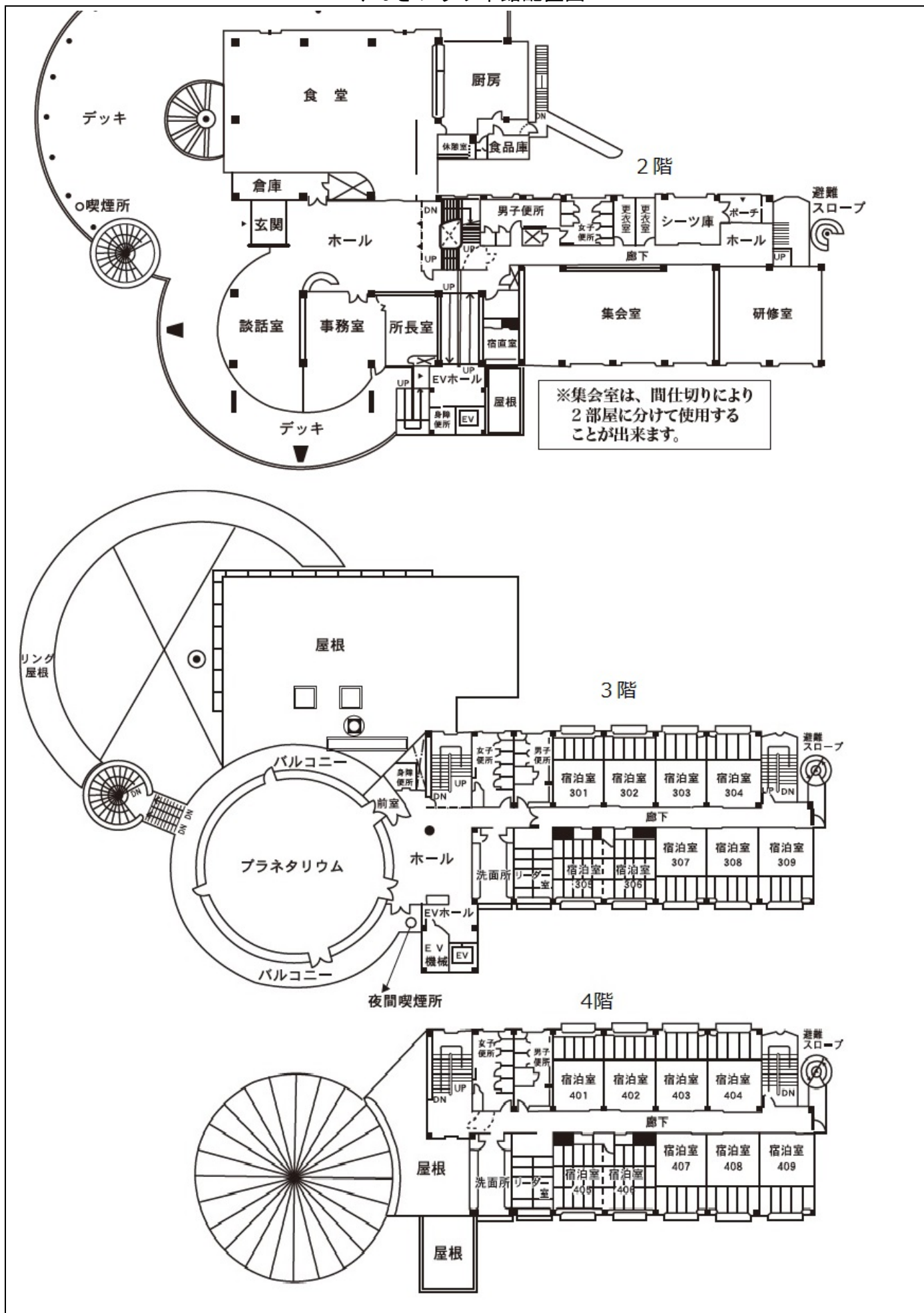
(開催実行委員会)

平成30年11月19日

	氏名	所属	役職		登山			宿泊			部屋番号
			岳連・岳協	日山協	A	B	帰宅	22	23	24	
1	仙石 富英	栃木岳連	副理事長	常務理事	—	—	—	—	◎	—	408
2	松隈 豊	神奈川岳連	理事長	委員長	—	★	—	◎	◎	◎	3FL
3	西山 常芳	都岳連		副委員長	—	—	—	◎	◎	◎	3FL
4	堀江 伸子	埼玉岳連		副委員長	—	☆	—	—	◎	◎	406
5	小高 令子	都岳連		常任委員	●	—	—	—	◎	◎	4FL
6	田上 正敏	茨城岳連	広報委員長	常任委員	—	—	—	—	◎	◎	304
7	手塚 福寿	栃木岳連	理事	常任委員	—	—	—	—	◎	◎	304
8	増田 修	埼玉岳連	委員長	常任委員	●	—	—	—	◎	◎	305
9	小林 貞幸	長野山協	委員長	常任委員	●	—	—	—	◎	◎	302
10	猪狩 ノブ	都岳連	副委員長	常任委員	—	☆	—	◎	◎	◎	406
11	岡田 博行	都岳連	委員長	専門委員	●	—	—	—	◎	◎	302
12	廣田 博	都岳連		専門委員	—	☆	—	◎	◎	◎	301
13	湯浅 達男	神奈川岳連		専門委員	—	—	—	—	◎	—	301
14	岩崎 繁夫			専門委員	—	☆	—	◎	◎	◎	3FL
15	柴崎 英保	埼玉岳連			●	—	—	◎	◎	◎	305
16	櫻井 勝伸	埼玉岳連			—	☆	—	◎	◎	◎	309
17	八木 茂	埼玉岳連			●	—	—	—	◎	◎	305
18	千葉 弓子	埼玉岳連			—	★	—	◎	◎	◎	406
19	今井 茂子	埼玉岳連			—	☆	—	—	◎	◎	406
20	小島 和徳	都岳連		専門委員	—	—	—	—	—	—	24のみ参加
21											



げんきプラザ本館配置図





発行元

公益社団法人日本山岳・スポーツライミング協会
自然保護委員会

〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1

岸記念体育会館 4F

TEL 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395

HP www.jma-sangaku.or.jp